自然共生園とは

東北地方のきびしい自然と人とのかかわり合いによっ て育まれた文化や里の自然を体験し、楽しみながら学ぶこ とができる施設です。再生された里の田園風景、居久根、 草原、湿地、牧野など、みちのくらしい動植物が豊かな里 の自然を、散策しながら楽しめます。

■見どころ紹介

~里地の自然~

耕作地・水田・居久根

畑では、ソバや麦、青菜や蕪、豆類など東北地方の食文 化にちなんだ作物を栽培しています。春は青麦が風にそよ ぎ、夏はソバの白い花が一面を覆い、秋は柿や栗が実りま す。懐かしさとぬくもりのある、みちのくらしい里地の風 景が楽しめます。

「居久根」とは屋敷林のことで、季節風を防ぎ、落葉や 焚付けを採るための暮らしに欠かせない林でした。居久根 に植えられた、田打ち桜とよばれるコブシが咲くころにな ると、その年の農作業が始まります。

~草原の自然~

展望野草園・サクラソウ園・放牧区

草が飼料や肥料として必需品であった時代には、里地に 草原が維持されていました。草が利用されなくなると草原 もなくなり、今では草原特有の動植物が絶滅に瀕していま す。ここでは、かつて人の手で維持されていた草原(半自 然草原)の再生を目指し、オキナグサ、サクラソウ、カワ ラナデシコ、キキョウなど、50 種類ほどの野草を、この 地域のタネから育てて増やしています。

放牧区ではヤギやヒツジを放牧し、ふれあい体験がで きます。初夏に刈る羊毛は手仕事体験に利用しています。 かつて草刈の時に使用した草泊りを復元してあります。

~水辺の自然~

湿生花園・ヨシ原・スゲ原・ヤナギ湿地林・小川

湿生花園では再生した湿地で、野草をタネから育ててい
 ます。初夏から秋にかけて、カキツバタ、チダケサシ、ク サレダマ、ヌマトラノオ、ミソハギ、コバギボウシ、サワ ギキョウ、オオニガナ等が咲きます。ヘイケホタルも生息 するようになりました。

ヨシ原やスゲ原、ヤナギ湿地林は、かつての水田の跡地 です。初夏のヨシ原ではオオヨシキリが子育てを行います。 園内を流れる小川ではアブラハヤやスナヤツメ等の魚類、 カワトンボ等の水生動物が生息しています。

~樹林の自然~

コナラ林・崖線樹林・ヤナギ林

コナラ林や崖線樹林では、下刈を行って明るい雑木林を 再生し、樹林特有の野草を育成しています。春にはルリソ ウ、クリンソウ、初夏にはニッコウキスゲ、夏にはソバナ、 秋にはキバナアキギリ等、四季折々の野草が咲きます。野 草の豊かな雑木林の散策が楽しめます。



******: 秋の花の道草おすすめコース(2,000m) *****: 山羊ふれあい体験場所へのコース(230m)



~展望野草園からの蔵王の眺め~

快晴の日には、展望野草園の頂きから屏風岳、熊野岳な ど蔵王の山々の眺めが楽しめます。

また、東側には、北川を挟んでコナラの雑木林で覆われた 里山地区や、こんもりとした釜房山が望めます。里山地区 へは、ドックランの傍の橋を渡って、歩いて行くことがで きます。



~体験施設~ 自然共生情報館

自然共生園の受付です。園内の見所や草花を、展示や映 像などで紹介しています。草を素材としたクラフト等の体 験ができるほか、イベント情報、野の花情報、生き物情報 なども発信しています。随時、自然再生や農園活動、手仕 事活動のボランティアさんを募集しています。

知恵体験舎

板の間や縁側で、のんびりと休憩できます。体験イベン トでは、農作業体験や、ここで採れた作物を使った食品加 工体験など、みちのくの自然との共生が育んだ暮らしの知 恵が学べます。

●お問い合わせ先:みちのく公園管理センター

TEL0224-84-5991 (担当田代、葉坂) 〒989-1505

宮城県柴田郡川崎町大字小野字二本松53-9 http://www.michinoku-park.info/wp/



今日はここを観てみよう!

■晩秋の生きもの

アマガエル (位置Fほか)

雑木林の中を歩いていると、枯草の色になった冬眠間近のアマガエルが、足元から飛び出してくることがあります。



フユシャクガの仲間(位置Fほか)

フユシャクガは、寒くなると現れる小型の 蛾で、林内をヒラヒラ舞う姿がみられます。 雌には翅がありません。写真のクロスジフ ユエダシャクは、代表的な種類です。



雪虫の仲間(位置Aほか)

風のない穏やかな日に、妖精のような雪虫がふわりふわりと飛ぶことがあります。大きさ3~4mmのアブラムシの仲間です。



今日はここを観てみよう!

■秋の小鳥

モズ(林縁など)

秋になると高鳴きをするので、よく目立つようになります。「もずのはやにえ」と呼ばれる、バッタやカエル等の獲物を串ざしにする習性があります。



ヒヨドリ(樹林など)

この時期、集団で訪れ、ピーヨ、ピーヨ、 と甲高く鳴きます。一年中見られますが、 夏にいた集団は南へ渡り、この時期の集団 は、北から移動してきたものだそうです。



ヤマガラ(樹林など)

おなかのオレンジ色と顔の黒とクリーム色が特徴です。この時期はあまり人を恐れないので、エゴノキ等の硬い実をよく食べている姿を観察できます。



でくてくマップ・自然共生国が



今日はここを観てみよう!

■いろいろな実

ハシバミ(位置A・E)

カバノキ科の低木で、クッキーやチョコレートに使われるヘーゼルナッツの仲間です。 やや湿った場所に生え、共生園では小川沿いや湿地に見られます。



ガマ(位置G)

ソーセージのような実が、この時期になると、突然ボワワワーっと膨らみ、綿毛のようなタネが一斉に風に飛ばされます。ひとつの穂のタネの数は 20 万~35 万個とか。



クロウメモドキ(位置D)

クロウメモドキ科の低木で、赤い実のウメ モドキとは別の科です。湿地ややや湿った 林内に生えます。実は毒です!



今日はここを観てみよう!

■どんぐりの落葉

自然共生園では少し変わったドングリが生 えています。落葉をさがしてみてね。

カシワ(位置B・C・Dほか)

柏餅に使う葉です。このあたりでは居久根 や境界木に植えられています。鋸歯が丸い のが特徴です。



ナラガシワ(位置B・Hほか)

カシワのように大型の葉であるため、柏餅 にも使う地域があります。柄が長いのが特 徴です。ドングリも大型です。



ミズナラ(位置B・I)

奥山に多いドングリで里山では稀です。カシワより葉の縁がギザギザにとがり、ナラガシワより葉の柄が短いです。



花野の草原のはなし

■茅場(放牧区、サクラソウ園、展望野草園)

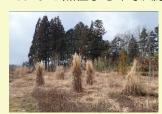
かつて、草が飼料や堆肥、屋根材として、暮らしにかかせなかった時代は、里には茅場が維持されました。盆明けから秋にかけて草刈が行われました。集落から遠い茅場には泊りがけで出かけ、「草泊り」という草刈小屋をつくって、そこで寝泊りをしながら茅を刈ったそうで、楽しみな行事でもあったようです。刈った茅(ススキやオギ)は「しまたて」や「草小積」にして、乾燥させました。茅場は、木やササが生えないように、野焼きによって維持されることも多く、火に強いカシワだけが点々と残っているのも、茅場の風景の特徴です。人の手で維持された草原には、カヤネズミ等、稀少な草原の動植物の命が育まれています。





カシワが点在する草原風景

草泊り





しまたて

草小積



カヤネズミの巣